

Insecticidal Activity of a New Pyrethroid. Studies on Insecticide I. Michio NAKANISHI, Toshihiko MUKAI, Shuji INAMASU, Atsushi TSUDA, Kozo ABE. (Research Laboratories, Yoshitomi Pharmaceutical Industries, Ltd., Yoshitomi-cho, Fukuoka, Japan) Received July 3, 1970, *Botyukagaku* 35, 76, 1970.

10. 新規ピレスロイドの殺虫効果 殺虫剤に関する研究 第1報 中西美智夫, 向井俊彦, 稲俣修司, 津田 厚, 安部宏三, (吉富製薬株式会社研究所, 吉富町, 福岡県) 45. 7. 3 受理

新規 pyrethroid として ether, thioether および alkynyl 置換基を有する furfuryl, thenyl benzyl 系 ester について効力試験を行い, これらの中から ether 置換誘導体として 4-methoxy methyl benzyl ester, 5-methoxyethylfuryl ester がすぐれた効力を有し特に後者は市販 Allethrin とほぼ同等の効果を示した.

また置換炭素鎖の不飽和度と殺虫活性の関係について検討を試みた結果, この炭素鎖を低級 alkyl から alkenyl, alkynyl と不飽和度を増加させるにつれて効力も増強され特に三重結合置換 ester はいずれもノックダウン, 致死力とも極めてすぐれた効果をあらわした.

さらにこれらの ester において強い活性を示した alcohol 成分を選んで tetramethylcyclopropane carboxylic acid ester に誘導した結果これらの ester も菊酸 ester に匹敵する殺虫効力を示した.

結 論

従来 Allethrin と比肩する特徴のある修飾 pyrethroid としては Phthalthrin にすぎなかったが, 最近あいついで Allethrin をしのぐ活性ピレスロイドが見出された. 即ち, 勝田ら¹⁾や Elliott ら²⁾によりほとんど時を同じくして合成された 5-allyl-furfuryl chrysanthemate, また Elliott らによる 5-benzyl-3-furylmethyl chrysanthemate³⁾ さらにまた松井ら⁴⁾による tetramethylcyclopropane carboxylic acid esters に関する研究成果は非常に興味深いものである. 著者らも Allethrin と同程度ないしはそれ以上の活性を示す新しい pyrethroid として 5-furfuryl-furfuryl chrysanthemate⁵⁾, 5-(2-methoxyethyl)-furfuryl chrysanthemate⁶⁾, 5-(cyclohexen-2-yl)-furfuryl chrysanthemate⁷⁾, 5-(2-methoxyethyl)-thenyl chrysanthemate⁸⁾, 4-methoxymethylbenzyl chrysanthemate⁹⁾, 5-(2-propynyl)-furfuryl chrysanthemate¹⁰⁾, 2-methyl-5-(2-propynyl)-3-furylmethyl chrysanthemate¹¹⁾, 5-(2-propynyl)-3-furylmethyl chrysanthemate, 4-(2-propynyl)-benzyl chrysanthemate¹²⁾ などを見出した.

これらの活性 pyrethroid のうち特に alcohol 部分の側鎖として従来の pyrethroid 研究では未開拓な ether および thioether 基さらに alkynyl 基について, これらを母核すなわち furan, benzene および thiophene と組合せて, さらに一連の研究を行った. そのうちの一部の alcohol については, 先述した cyclopropane carboxylic acid ester に誘導した. これらの結果は, 比較のために合成した公知化合物をお

りまぜて, 主としてイエバエに対する殺虫効力を検討し, 若干の知見を得たので, ここに報告する.

実験材料および実験方法

I 実験材料

1. 供試昆虫

当研究所において, オカラ培養基に粉ミルクと砂糖水で累代飼育*したイエバエ (高槻系) *Musca domestica vicina* Macq. の羽化後 4~5 日の成虫 (雌雄比 1:1) を用いた.

2. 供試薬剤

(1) 供試化合物

a. Alkoxyalkylfuryl および -thenyl ester. 化合物 No. 1~19. (cf. Table 1).

b. Alkoxyalkylcyclopentyl および isoxazolyl ester. 化合物 No. 20~21. (Table 2).

c. Alkoxyalkylbenzyl ester. 化合物 No. 22~30. (cf. Table 3).

d. Alkoxyalkyl側鎖系アルコールの tetramethylcyclopropane carboxylic acid ester. 化合物 No. 31~33. (cf. Table 4).

e. Alkynylfuryl および -thenyl ester. 化合物 No. 34~38. (cf. Table 7).

f. Alkynylbenzyl ester. 化合物 No. 39~44. (cf. Table 8).

g. Alkynyl 側鎖系アルコールの tetramethylcyclopropane carboxylic acid ester. 化合物 No. 45~

* 飼育条件: 26~27°C, RH 60~70%, Mass breeding.

Table 1. Insecticidal activities of alkoxyalkylfuryl and thenyl esters against houseflies

No.	CH₃ CH₃ >C=CH- CH CH COOCH₂ CH₃ C CH₃ R¹ R² R A				Petri-dish method (Successive contact)								Topical application LD ₅₀ (γ /fly)	n _D (°C)
	Concentration													
	0.01%		0.005%		0.0025%		0.00125%							
	R	R ¹	R ²	A	KT-50 (min.)	M* (%)	KT-50 (min.)	M (%)	KT-50 (min.)	M (%)	KT-50 (min.)	M (%)		
1	3-H	H	-CH ₂ OCH ₃		11	38	27	7.5	>60	0	>60	0	3.49	1.4958(23)
2	3-H	H	-(CH ₂) ₂ OCH ₃		5.4	100	8.4	100	9.5	79.4	27	38.1	0.656	1.4933(29.5)
3	3-H	H	-(CH ₂) ₃ OCH ₃		26	42	—	—	—	—	—	—	6.27	1.4890(27)
4	3-H	H	-(CH ₂) ₂ OC ₂ H ₅		25	55	>60	22	—	—	—	—	>6.4	1.4879(26.5)
5	3-H	H	-CH₂CHOCH₃ CH₃		7.9	90	11	78	>120	45	—	—	1.98	1.4904(28)
6	3-CH ₃	H	-CH ₂ OCH ₃		16	70	—	—	—	—	—	—	>6.4	1.4940(28)
7	3-H	H	-CH ₂ OC ₂ H ₅		38	55.3	>120	35.9	—	—	—	—	>3.5	1.4938(20)
8	2-H	H	-CH ₂ OCH ₃		10.6	52.9	30	19.1	35	26.1	>120	12.9	>3.2	1.4942(20)
9	2-H	H	-(CH ₂) ₂ OCH ₃		24.4	70.7	>120	55.8	>120	44.3	>120	37.8	>3.2	1.4984(20)
10	2-CH ₃	H	-CH ₂ OC ₂ H ₅		40	57	—	—	—	—	—	—	>6.4	1.4884(26.5)
11	2-H	-CH ₂ OCH ₃	-H		>120	7.9	>120	7.7	—	—	—	—	—	1.4870(20)
12	3-H	-(CH ₂) ₂ OCH ₃	-CH ₃		9.5	89	>60	52	>90	54	—	—	>3.2	1.4901(30.5)
13	2-H	-(CH ₂) ₂ OCH ₃	-H		>120	12.5	—	—	—	—	—	—	—	1.4950(18)
14	3-(CH ₂) ₂ OCH ₃	H	-CH ₃		>120	26.2	>120	21.6	—	—	—	—	>1.92	1.4887(20)
15	3-H	H	-CH ₂ SC ₂ H ₅		20	40	>60	15	>60	0	—	—	—	1.5171(25)
16	3-H	H	-CH ₂ CH ₂ SCH ₃		8.2	94	15.6	84	17.5	73	55	53	0.800	1.5144(27)
17	3-H	H	-CH ₂ OCH ₃		9.7	93	14	88.3	19.8	47.5	>120	37.5	1.50	1.5186(27)
18	3-H	H	-(CH ₂) ₂ OCH ₃		5.6	100	13.7	95	32	46.8	60	18	1.06	1.5161(24.5)
19	3-H	H	-CH ₃		9.7	93.3	20.9	47.6	26	32	>60	27	2.72	1.4961(21)
	Allethrin				5.4	100	7.5	98.6	9.3	85.4	18.6	53.2	0.704	—

* Mortality (dead plus moribund) after 24 hrs.

49. (cf. Table 9).

(2) 浸漬蚊取線香

供試化合物が所定濃度となるように調整したacetone溶液 20cc と、別に 75mm の大きさに切り揃えた仏壇用線香(商品名: 臥雲香, 390×3×3mm)* 4 本を試験管(18φ×180mm)に入れた。30分間浸漬したあと取り出し風乾して浸漬蚊取線香を得る。

II. 実験方法

1. 局所施用法

炭酸ガスで麻酔したイエバエの胸部背板に、またチャバネゴキブリの胸腹部にマイクロシリンジで供試薬剤の acetone 溶液の一定量を施用したのち砂糖水をあたえて室温(26~27°C) 24時間後の致死率を求め、濃度一致率回帰直線により LD₅₀ 値をもとめた。

2. ガラス面接触法

供試薬剤を acetone で希釈し、それぞれの濃度の薬剤 1ml を直径 9cm のペトリ皿に滴下して均一にひろげ、ついで acetone を蒸散させた後、イエバエまたはチャバネゴキブリを放ち、経過時間に伴うノックダウン効果ならびに24時間後の致死率を求めた。

3. 蚊取線香

長沢式散粉降下装置を用いて試験した。上述の方法で調製した浸漬線香(長さ 75mm)の一端から 8mm のところに、また他の端から 7mm のところに印をつけ、一端を線香立に固定してから、他端に点火する。火が刻印にかかったとき線香をシリンダー内に移した。線香上の残りの刻印まで、すなわち 60mm 燃焼させたあと残りの線香をシリンダーからとりだした後、イエバエ成虫30匹をシリンダー内に放ち、時間経過にともなうノックダウン虫数を観察記録した。1時間煙霧に被毒させたあとイエバエを集めて清浄な容器に移し、砂糖水を与えて室温(25~27°C)において24時間後の致死率を観察した。

実験結果および考察

I. Ether および thioether 側鎖をもつ化合物

1. 接触試験および局所施用法

(1) Furan および thiophene 系 ester

第1表において、furan の2,5-置換体についてみると、側鎖が alkyl の最小単位である methyl 基の化合物 No. 19^{*)} は Allethrin にはおよばないまでもかなりの殺虫効力がみられるが、ether の最小単位である methoxymethyl 基の化合物 No. 1 の殺虫効果は化合

物 No. 19 より弱い。ところで、側鎖の炭素原子が一個ふえた methoxyethyl 基の化合物 No. 2 では殺虫効力は飛躍的に強くなり、Allethrin と同等の強さを示すようになる。

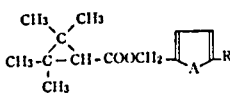
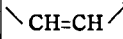
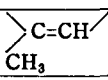
しかし化合物 No. 2 の側鎖の原子配列順が入れかわった ethoxymethyl 基の化合物 No. 7 では効果はきわめて弱くなり、さらに化合物 No. 2 より炭素鎖を1つふやした methoxypropyl 基の化合物 No. 3 および ethoxyethyl 基の化合物 No. 4 は、いずれも効力が非常に弱い。

Elliott らの 5-benzyl-3-furylmethyl chrysanthemate³⁾ について知られているように benzyl 側鎖では、furan 核の3,5-置換体の方が2,5-置換体より殺虫効果は著しく強いが、alkoxyalkyl 側鎖の場合では、methoxymethyl 側鎖の化合物 No. 1 と-8、また methoxyethyl 側鎖の化合物 No. 2 と-9 にみられるように、3,5-置換体の効力が特にすぐれているとはいえない。3,4-置換化合物ほかおよびそれらの methyl 置換体など第1表をとおしてわかるように、alkoxyalkylfuryl ester の中では化合物 No. 2 の 2-methoxyethylfuryl chrysanthemate の殺虫効果が一番すぐれている。側鎖を thioether 基にかえた場合、その isologue との効力のちがいに一定の傾向はうかがえなかった。たとえば化合物2と-16とでは、後者の速効性が0.5~0.6 倍低い致死効果については同等かやや下まわる程度である。ところで化合物7とその isologue、化合物15、とでは逆の傾向がみられる。

次に thiophene 系 ester では、側鎖が methoxymethyl 基の化合物17と methoxyethyl 基の化合物18とについて Allethrin との効力を対照に比べると、まづ 5-(2-methoxyethyl)-2-thenylester、化合物18は0.01%で Allethrin と同等の KT-50 値を示すが、0.00125%では Allethrin の方が3.2 倍もノックダウン効力が大きく、化合物18の速効性は低濃度では Allethrin より大巾な効力差がついており、その間の濃度-KT-50 値の関係は、一定の比率をもつて効果が低くなっている。他方、5-(2-methoxymethyl)-2-thenyl ester、化合物 No. 17 は、濃度 0.01% で KT-50 値は化合物 No. 18 より 0.55 倍低いが、0.005% では化合物18と同程度の速効性を示し、0.0025% では効果が逆転するにもかかわらず、更に低濃度の 0.00125% では急速に効果を失う、同じガラス面継続接触試験により24時間後の致死率についても、ノックダウン効果と同様に逆転現象がみられた。この場合、化合物 No. 17 は 0.00125% の範囲まで濃度一致率間に一定の関係がみられ、ノックダウン効果の場合のような急速な失活現象はみられなかった。

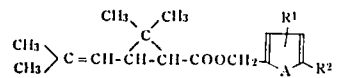
* 尚、acetone 前処置し、風乾したものをを用いた。本試験に用いたアセトン浸漬のみによる線香ではイエバエに対して KT-50 及び24時間後致死率が観察されなかった。

Table 4. Insecticidal activities of tetramethylcyclopropane carboxylic acid esters against houseflies

No.			Petri-dish method (Successive contact)				Topical application LD ₅₀ (γ /fly)	n _D ²⁰
	A	R	Concentration					
			0.01%	0.005%	0.0025%	0.00125%		
			KT-50 M* (min.) (%)	KT-50 M (min.) (%)	KT-50 M (min.) (%)	KT-50 M (min.) (%)		
31		-(CH ₂) ₂ OCH ₃	5.3 100	5.7 96	6.0 73.2	8.0 53.3	1.33	1.4853
32		-CH ₂ OCH ₃	8.1 100	10.5 100	21 67	24 42.4	1.37	1.5089
33		-CH ₂ OCH ₃	14.0 93.6	17 85.0	22 36.1	>120 22.5	2.05	1.5059
	Allethrin		5.4 100	6.7 82.1	10.0 70.5	17.2 59.7	0.723	—

* Mortality (dead plus moribund) after 24 hrs.

Table 5. Insecticidal activity of mosquito coil (dipping formulation, soaked for 30 min. in 0.2% acetone solution) against houseflies.

No.				Length of the test piece of mosquito coil (area in cross section, 0.3×0.3cm ²)				n _D (°C)
	R ¹	R ²	A	6cm		3cm		
				KT-50 minute	Mortality after 24hrs	KT-50 minute	Mortality after 24hrs	
2	H	-CH ₂ CH ₂ OCH ₃	O	14.1	80	34.4	9.0	1.4939(30)
16	H	-CH ₂ CH ₂ SCH ₃	O	28	60	—	—	1.5144(27)
18	H	-CH ₂ CH ₂ OCH ₃	S	19	60	—	—	1.5146(29.5)
22	H	-CH ₂ OCH ₃	-CH=CH-	12.7	100	31.7	54.8	1.5139(20)
26	H	-CH ₂ OCH ₃		13.8	100	41	5	1.5179(20)
23	H	H		43.5	15	>60	0	1.5112(29)
25	H	-CH ₂ SC ₂ H ₅	-CH=CH-	28.9	50	>60	0	1.5342(26)
28	H	-CH ₂ CH ₂ OCH ₃	-CH=CH-	31	80	—	—	1.5072(29)
30	H	-CH ₂ CH ₂ OCH ₃		>60	7.5	>60	0	1.5189(20)
29	H	-H		40	27.5	>60	2.5	1.5068(30.5)
	Allethrin			8.3	93.2	31	49.1	—

ester 系の化合物のノックダウン効果は比較的に弱いのに反し、致死効果は極めて高く、allethrin の LD-50 値を1.00とした場合の効力比を強いものから二三列挙すると次の通である。4-methoxymethyl-2-methyl [化合物 No. 26, 効力比 1.33] > 4-methoxymethyl

[化合物 No. 22, 効力比 1.17] > 4-ethylthiomethyl [化合物 No. 25, 効力比 0.71] > 2,6-dimethyl-4-methoxymethyl [化合物 No. 27, 効力比 0.44] > 4-ethoxymethyl [化合物 No. 24, 効力比 0.37]。この表中興味のあることは、furan および thiophene 系化合

物の場合に不活性基と考えられていた ethoxymethyl または ethylthiomethyl 基置換ベンジルエステル (化合物 No. 24, -25) にさえかなりの効果がみられることである。

(4). Tetramethylcyclopropane carboxylic acid ester

上述の各項で活性の強かった代表 ester 三つの alcohol 成分, すなわち 5-(2-methoxyethylfurfuryl)-alcohol, 4-methoxymethylbenzyl alcohol および 4-methoxymethyl-2-methyl benzyl alcohol について tetramethylcyclopropane carboxylic acid ester とした。それらの殺虫効果は, ガラス面接触試験法の結果においてノックダウンおよび致死効果とも相当する chrysanthemic acid ester に比較すれば 0.01% の濃度では同等の効果を示したが, 特に低濃度では標題の ester の方が好結果を示した。ただ, 化合物 No. 33, 4-methoxymethyl-2-methyl benzylester, は相当する chrysanthemic acid ester, 化合物 No. 26 より殺虫効果がおとっている。化合物 No. 33 をのぞいては, 標題 ester のガラス面接触試験の結果はすぐれた効果を示したのに反し, 局所施用法による LD-50 値がいづれも対応する chrysanthemic acid ester の LD-50 値がいづれも 0.5~0.25 倍低くでていることがこの系列化合物の特徴であろう。

2. 線香試験

(1) Chrysanthemic acid ester

Allethrin に近い効果を示したのは methoxymethylbenzyl ester, 化合物 No. 22, と 5-(2-methoxyethyl)-furfuryl ester, 化合物 No. 2, および 4-methoxymethyl-2-methylbenzyl ester, 化合物 No. 26 の三つで,

ノックダウン効果は低濃度で Allethrin に近いが, 致死効果は allethrin におよばない。

(2) Tetramethylcyclopropane carboxylic acid ester

供試化合物には Allethrin と同等の効力を示したものはみあたらなかった。Allethrin に近い効果を示したのは methoxy ethylfurfurylester, 化合物 No. 31, であるがノックダウン効果が若干 Allethrin におよばない。

II. 三重結合側鎖をもつ化合物

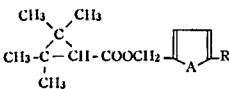
1. 接触試験および局所施用法

(1) Furan および thiophene 系 ester

furan および thiophene 誘導体の核置換基の不飽和度と殺虫効力間には極めて興味ある関係が存在し, furan を例にとればその側鎖置換基を水素から低級アルキル, 低級アルケニル, 低級アルキニルの順に不飽和度を増加させるにつれて殺虫効力も飛躍的に増大する。すなわち furfuryl ester には殺虫効果としてほとんどみるべきものはないが勝田ら¹⁾は 5-methyl furfuryl ester が従来の pyrethroid にみられない簡単な構造であるにもかかわらずかなりの速効性と致死力を有し, さらに 5-allylfurfuryl ester では, 速効性の点においては Allethrin に劣るが致死力は Allethrin よりもはるかに強い効果をもつことを見出した。

一方これまで未開拓の分野であった三重結合置換 furfuryl および thenyl 系 ester の接触法ならびに局所施用法による殺虫効果を第 7 表に記載するが, これらのデータからあきらかなように, この系統の化合物はいずれも非常にすぐれた速効性を有するとともに低濃度領域まで極めて安定した効果を示した。

Table 6. Insecticidal activity of mosquito coil (dipping formulation, soaked for 30 min. in 0.2% acetone solution) against houseflies

No.			Length of the test piece of mosquito coil (area in cross section, 0.3×0.3cm ²)				n _D (°C)
	R	A	6cm		3cm		
			KT-50 minute	Mortality after 24hrs	KT-50 minute	Mortality after 24hrs	
31	-CH ₂ CH ₂ OCH ₃		18	65	34	15	1.4853(20)
32	-CH ₂ OCH ₃		27.6	40	>60	0	1.5089(20)
33	-CH ₂ OCH ₃		28.8	40	46.9	0	1.5059(20)
	Allethrin		8.9	91.6	24.7	13.0	—

いする affinity の差によるものと考えられる。

(2) benzyl 系 ester

第8表の実験結果からこの系統の ester もまた前述の furfuryl, thenyl 系 ester と同様に核置換基の不飽和度の高い三重結合置換 benzyl ester が最もすぐれた効力を示し、特に No. 39 の4-(2-propynyl) benzyl

ester は従来の benzyl 系 ester にみられない市販 Allethrin を上まわる速効性を示すとともに局所施用法による LD-50 値もまた 0.205r/fly と Allethrin の3倍以上の効力を示した。

次にフェニル核上におけるプロパギルの置換基の位置の相違は殺虫効力に著しい影響をおよぼし、例えば

Table 9. Insecticidal activities of tetramethylcyclopropane carboxylic acid esters against houseflies

No.	CH₃ CH₃ C CH₃ CH₃ C CH COOCH₂ R CH CH A R¹ R²				Petri-dish method (Succesive contact)				Topical appli- cation LD ₅₀ (r/fly)	n _D ²⁰
					Concentration					
					0.01%	0.005%	0.0025%	0.00125%		
	R	R ¹	R ²	A	KT-50 M* (min.) (%)	KT-50 M (min.) (%)	KT-50 M (min.) (%)	KT-50 M (min.) (%)		
45	2-CH ₃	H	-CH ₂ -C≡CH	O	2.9 100	3.1 100	3.6 100	4.5 100	0.281	1.4952
46	3-H	H	-CH ₂ -C≡CH	O	2.9 100	3.1 100	4.4 97	6.0 61.9	0.672	1.4999
47	3-H	H	-(CH ₂) ₂ -C≡CH	O	6.3 100	6.5 100	7.2 100	8.6 51.8	0.788	1.4893
48	4-H	H	-CH ₂ -C≡CH	CH=CH *	7.3 100	9.1 100	10.3 100	12.1 91.6	0.335	1.5205
49	4-H	H	-CH ₂ -C≡CH	C=CH CH₃ *	11.2 100	15.5 100	26.5 100	25 80.3	0.333	1.5431
	Allethrin				5.7 100	10.8 96.4	17.3 85.4	31.2 55.6	0.692	—

* The numbering begins with the asterisked atom.

Table 10. Insecticidal activity of mosquito coil (dipping formulation, soaked for 30 min. in 0.2% acetone solution)† against houseflies.

No.	CH₃ CH₃ C=CH-CH-CH-COOCH₂ C CH₃ CH₃ R R¹ A R²				Length of the test piece of mosquito coil (area in cross section, 0.3×0.3cm ²)				n _D (°C)
					6cm		3cm		
	R	R ¹	R ²	A	KT-50 minute	Mortality after 24hrs	KT-50 minute	Mortality after 24hrs	
34 ^{††}	2-CH ₃	H	-CH ₂ -C≡CH	O	8.0	95.4	20.3	53.8	1.5048(20)
35	2-H	H	-CH ₂ -C≡CH	O	6.0	100	12	100	1.5030(20)
36	3-H	H	-CH ₂ -C≡CH	O	7.2	99.5	15.7	87.0	1.5058(20)
38	3-H	H	-CH ₂ -C≡CH	S	13.2	80.0	29	10	1.5202(28)
44	4-CH ₃	H	-CH ₂ -C≡CH	C=C CH₃ * H	30	35	>60	7.5	1.5240(20)
	Allethrin				8.9	91.6	24.7	13	—

* The numbering begins with the asterisked atom.

† Results shown are for concentration of 0.2% unless otherwise noted.

†† The compound is tested at concentration of 0.1%.

プロパギル基の4位置換体 No. 39 はこの系統の中で最高の効力を示したが、No. 40の3位置換 ester の殺虫性はNo. 39に比べてノックダウン致死効果ともに大巾に低下し、さらに No. 41 の2位置換体ではほとんど無効果となり同じプロパギル置換 ester についてもこの様に位置の相違により著しい効力差がみられた。

次にフェニル核上におけるプロパギル基以外の置換基の存在がおよぼす影響については 4-allylbenzyl ester の例でこの化合物にメチル基を導入したものは未置換の benzyl ester に比べてはるかに効果がよくなり、とくに 2,6-dimethyl 4-allylbenzyl ester¹³⁾ が最もすぐれた効力を示したと Elliott はのべているが、この三種結合系 benzyl ester についてはこの様なメチル基の導入による効果の増強はみとめられず、No. 43, No. 44 例のようにむしろその効果は低下した。

(3) Tetramethylcyclopropane carboxylic acid ester

上述の各項で活性の強かった代表的な ester の alcohol 成分、すなわち三重結合系 furfuryl alcohol, benzyl alcohol を用いて標題の ester を合成し検討した結果を第9表に示した。

まずこれらの ester のガラス面接触法による結果から化合物 No. 45, 46 の furfuryl ester のノックダウンは低濃度まで非常によく、とくに化合物 No. 45 の 0.00125% 濃度における KT-50 は 4.5 分でこれまでの菊酸エステルをも含めてこの系統の中で最高の効力を示すとともに致死力の方も極めてすぐれた効果を示

した。

また benzyl 系 ester も相当する菊酸エステルと比較してなんら遜色のない効果をもち 0.01% 濃度におけるノックダウン効果は Allethrin に若干劣るが 0.005% 以下の低濃度では Allethrin をはるかにうまわり、致死効力においても極めてすぐれた効果を示した。

2. 線香試験

(1) Chrysanthemic acid ester

三重結合置換 furfuryl, thenyl, benzyl 系 ester の線香による試験結果を第10表に示すが、これらの中で thenyl および benzyl ester についてはガラス面接触試験でみられたような効果は見出せなかった。しかし一方の furfuryl 系 ester 化合物 No. 34, 35, 36 はいずれも市販の Allethrin をはるかにしのぐすぐれた殺虫効果を示し、将来これらが線香、マット製剤として充分期待される化合物であろうことを示唆した。

(2) Tetramethylcyclopropane carboxylic acid ester

第11表に tetramethylcyclopropane carboxylic acid ester の試験結果を示したが、これらの中で furfuryl 系 ester は第10表の菊酸の furfuryl ester におけると同様にすぐれた殺虫性を有し、とくに化合物 No. 45 は 0.1% 浸漬線香においてノックダウン、致死力とも、これらの系統の中で最も強い効果を示した。

一方、benzyl 系 ester は接触試験においては、すぐれた致死効果を示すが、線香による試験ではノックダウンもおそく予期した結果は得られなかった。

Table 11. Insecticidal activity of mosquito coil (dipping formulation, soaked for 30 min. in 0.1% acetone solution) against houseflies

No.	CH₃ CH₃ C CH₃ CH₃ CH₃ C CH₃ CH₃ C CH₃ CH₃ C CH₃ CH₃ C CH₃ CH₃			
-----	---	--	--	--

* The numbering begins with the asterisked atom.

以上述べて来た alkoxyalkyl, alkylthioalkyl および alkynyl 基を有する furfuryl, thenyl および benzyl 系の新規 pyrethroid について、イエバエに対する殺虫効力を主として Allethrin を対照に試験した結果、まず alkoxyalkyl 置換誘導体については 5-(2-methoxyethyl)-furfuryl ester, 4-methoxymethyl benzyl ester が最もつよい効果を示した。しかしこの置換基のもつ殺虫性は非常に特異的であり、methoxyethyl 基については 2,5 置換の furfuryl についてのみ、また methoxymethyl 基については benzyl ester のみに殺虫活性がみられ、それ以外の組合せによるエステルについて有効なものは見出せなかった。一方置換炭素鎖の不飽和度は殺虫活性に著しい影響をおよぼし、その炭素鎖を低級アルキルからアルケニル、低級アルキニルとその不飽和度を増加させると殺虫効力は飛躍的に増強し特に三重結合置換 ester は furyl, thenyl, benzyl のいずれの系においてもノックダウン、致死力ともに極めてすぐれた効果を示した。

謝辞 本研究に終始協力した吉富製薬研究所の諸氏に感謝する。

文 献

- 1) Katsuda, Y., H. Ogami, T. Kunishige, Y. Sugii: *Agr. Biol. Chem.*, 31, 259 (1967).
- 2) ミカエル, エリオット: 特許公報. 昭44-10279.
- 3) Elliott, M., A. W. Farnham. N. F., Janes. H., Needham. B. C. Pearson: *Nature* 213, 493 (1967).
- 4) Matsui, M., T. Kitahara: *Agr. Biol. Chem.*, 31, 1143 (1967).
- 5) 中西美智夫, 向井俊彦, 稲樹修司: 特許公報. 昭44-27990.
- 6) Nakanishi, M., T. Mukai, S. Inamasu: France Patent 1569411. 21, Avril (1969).

- 7) 中西美智夫, 向井俊彦, 稲樹修司: 特許番号 575273.
- 8) 中西美智夫, 向井俊彦: 特許公報. 昭45-12315.
- 9) 中西美智夫, 向井俊彦, 津田 厚: 特許公報. 昭 45-7073.
- 10) Katsuda, Y., T. Chikamoto, H. Ogami, H. Hirobe, T. Kunishige: *Agr. Biol. Chem.*, 33, 1361 (1969).
- 11) 中西美智夫, 向井俊彦: 特許公報. 昭45-7069.
- 12) 中西美智夫, 向井俊彦, 津田 厚: 特許公報. 昭 45-7070; Katsuda, Y., T. Chikamoto, H. Ogami, H. Hirobe, Tsutomu Kunishige: *Agr. Biol. Chem.*, 33, 1361 (1969).
- 13) Elliott, M., N. F. Janes, K. A. Jeffs, P. H. Needham, R. M. Sawicki: *Nature* 207, 938 (1965).

Summary

Various new pyrethroidal esters of furyl, thenyl and benzyl alcohols which contained alkoxyalkyl, alkylthioalkyl and ethynylalkyl groups were synthesized and evaluated for insecticidal activity against houseflies.

The insecticidal activity of the following compounds was found to be equal or superior to that of allethrin, e.g. 5-(2-methoxyethyl)-furfuryl chrysanthemate, 4-methoxymethyl-benzyl chrysanthemate and most of the 2-propynyl series esters.

For the typical alcohol components, tetramethylcyclopropane carboxylic acid esters were synthesized and the potency of the compounds was also studied.

抄 録

ハマキガ種1の oblique-banded leaf roller moth の性フェロモン

Sex Pheromone of the Oblique-banded Leaf Roller Moth, W. L. Roelofs, J. P. Tette, *Nature* 226, 1172 (1970).

1968年に red-banded leaf roller moth (*Argyrotaenia velutinana*) の雌より分泌される性フェロモンが cis-11-tetradecenyl acetate (I) であることを報告したが、



その後 (I) を用いての野外における捕集実験で oblique-banded leaf roller moth (*Choristoneura*

rosaceana) の雄も強く誘引されることが判明した。そこで、実験室で2万頭の雌を飼育して、常法のように単離、精製を行ない、カラムクロマト法, tlc, glc, オゾン酸化、質量分析などの手段によって、その性フェロモンもまた (I) であることを確認した。

(I) に dodecyl acetate を混ぜると、*A. velutinana* の雄に対する誘引性を非常に強めることがすでにわかっているが、その他の化合物のなかにも、(I) に混入すれば、*C. rosaceana* の雄に対する誘引性を強めることを知った。野外においては、これら2種のガの雌は第2の物質を分泌することによって互に区別しているという可能性もある。(深海 沿)